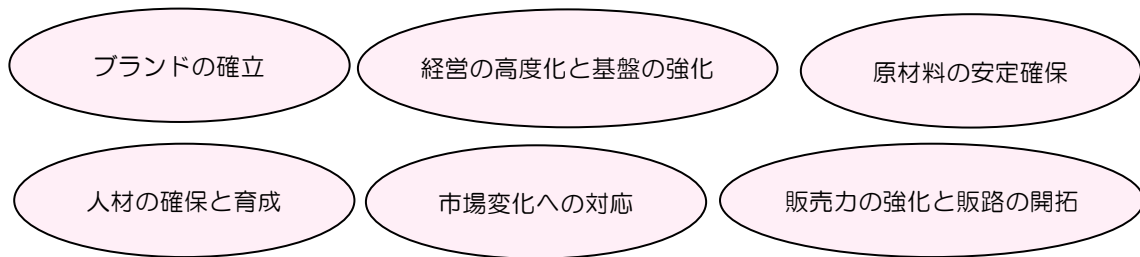


Ⅲ 工芸振興センター事業概要

1 令和6年度 事業体系

○沖縄県の工芸産業における課題



○工芸振興センターの役割

「総合的な工芸産業技術支援機関」としての機能



令和6年度 事業体系

人材育成

沖縄の工芸産業を担う高度な技術を持った中核人材の養成を図る研修の実施。

- (1) 高度工芸技術者養成事業
織物、紅型、漆芸、木工芸の専門技術講師による技術者養成研修
- (2) セルフプロデュース力強化工芸研修事業（人材育成）
技術以外の「自己プロデュース力（企画力、発信力、異業種交流、ネットワーク形成等）」を強化する人材育成研修
- (3) 金細工工芸縫製研修事業
金細工、工芸縫製の専門講師による技術者養成研修

情報提供・連携

- (1) 事業進捗状況等の発信
- (2) 事業成果の報告・展示会の開催
- (3) 技術開発研究結果の普及
- (4) 関係研究機関との技術交流

技術支援

業界の技術力および商品開発力等の向上を図る支援活動。

- (1) 技術相談・技術指導等
 - ①電話相談および訪問者対応
 - ②工芸産地訪問指導
 - ③依頼試験（依頼分析）対応
 - ④技術講習会開催
- (2) 試験機、加工機貸与

試験研究

- (1) 新技術開発研究
 - ①新素材開発
 - ②新製品開発
 - ③工程管理の改善
- (2) 技術継承研究
 - ①品質改善
 - ②工芸資源等データベース構築

2 令和6年度工芸振興センター主要事業

(1) 高度工芸技術者養成事業（人材育成）

① 目的

織物、紅型、漆芸、木工芸の各分野における工芸技術者に対して技術研修を行い、工芸産業を担う高度な技術を持った中核人材（技術者）の養成を図る。

② 内容

上記4分野の各専門技術講師による技術者養成研修を研修カリキュラムに沿って実施する。約1年の研修期間中に技術研修のほかに、経営・流通講座や外部講師による専門技術講習会も併せて実施する。研修生は公募によりそれぞれ4名程度（計16名程度）を募集し、選考のうえ決定する。

研修業務は委託により実施しているが、工芸全般の共通事項や個別技術指導など研修内容の一部についてセンターの職員が講師を務めている。

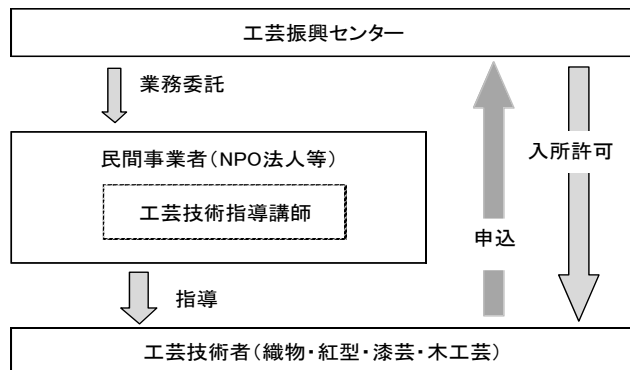
研修の最後には、研修期間中に制作した作品を一般の方へ展示し、培った技術や努力の成果を発表する成果展を開催している。

また、令和6年度から1年間の通年研修とは別に短期間で特定の技術習得を行うための研修（随時受入研修）を実施している。

【研修期間】通年研修 4月～翌年3月 随時受入研修 16日～120日

【研修生募集】通年研修 毎年12月～1月頃 随時受入研修 随時

③ 事業スキーム



【研修概要】

織物…製糸技術、染色技術、経^{たてがすり}・緯^{よこがすり}技術、琉球藍染色技術、各紋織^{もんおり}技術
および帯地^{おびじ}・着尺^{きじやく}製作技術等

紅型…道具づくり、色見本製作、図案^{かたぼり}技術、型彫技術、染色技術および
帯地・着尺製作技術等

漆芸…道具づくり、髹^{きゆうしつ}漆技術、乾漆^{かんしつ}技術、呂色^{ろいろ}技術、塗立^{ぬりたて}技術、加飾技術等

木工芸…道具づくり、加工機械操作、象嵌^{ぞうがん}技法、塗装、挽物^{ひきもの}・脚物^{あしもの}製作技術等

【事業実績】令和6年度：13人（うち1人は随時受入研修）

〈参考〉研修累計実績：1,203人（昭和49年度～令和6年度）

高度工芸技術者養成事業の研修生累計実績

(単位:人)

年度	修了者数	一般(通年)研修					特別(随時受入)研修				
		織物	紅型	漆工	木工	小計	織物	紅型	漆工	木工	小計
S49～H24	1,006	152	54	123	173	502	141	163	84	116	504
H25	15	5	2	4	4	15					0
H26	21	5	4	6	6	21					0
H27	19	5	6	3	5	19					0
H28	18	3	6	1	4	14			4		4
H29	17	5	4	4	4	17					0
H30	17	4	6	4	3	17					0
H31	13	1	3	2	4	10	2		1		3
R2	20	4	6	3	3	16	1		2	1	4
R3	19	2	5	4	5	16	3				3
R4	12	2	3	3	4	12					0
R5	13	3	2	4	4	13					0
R6	13	2	2	4	4	12		1			1
合計	1,203	193	103	165	223	684	147	164	91	117	519

※S49～H24は工芸技術研修指導

※特別研修は、一般研修(通年)とは別に短期間で特定の技術習得を行うための研修であり、令和6年度から「随時受入研修」の名称となっている。

(2) 金細工工芸縫製研修事業（人材育成）

① 目的

沖縄県の工芸産業の振興を図るため、伝統的な歴史を有する金細工と伝統染織物の二次加工技術である工芸縫製の2分野の技術者を育成する。

【金細工】琉球王国時代に誕生。「クガニゼーク」または「カンゼーク」と呼ばれ、房指輪やジーフアー（かんざし）などが製作されていた。

【工芸縫製】伝統染織物をバックやアクセサリ等、新たな魅力を持つ様々な製品に縫製加工する技術。

② 内容

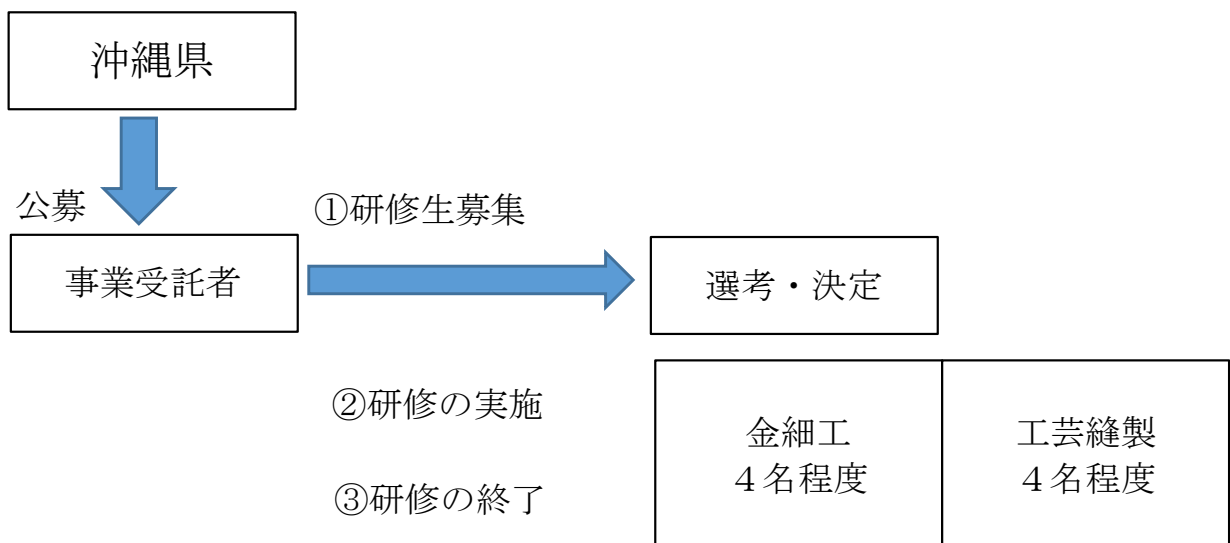
金細工、工芸縫製それぞれの専門技術講師による技術者養成を研修カリキュラムに沿って実施する。研修期間は7ヶ月で、技術研修のほかに県内事業所視察等を実施し、現代ニーズに即した製品づくりに対応する人材を育成する。研修生は公募によりそれぞれ4名程度（計8名程度）を募集し、選考のうえ決定する。

研修の最後には、研修期間中に制作した作品を一般の方へ展示し、培った技術や努力の成果を発表する成果展を開催している。

【研修期間】8月～翌年3月 週3日程度

【研修生募集】5月～6月頃

③事業スキーム



【研修概要】

金細工…デザイン基礎、鋳金、鍛造・彫金 等

工芸縫製…基礎、型紙製作、皮漉き・磨き、小物製作、バッグ製作 他

(3) セルフプロデュース力強化工芸研修事業（人材育成）

① 目的

工芸事業者に対し、技術以外のスキル（企画力・表現力・発信力等）の習得、市町村の枠を超えた俯瞰的で公益性のあるスキル（異業種交流、ネットワーク形成等）「自己プロデュース力」を習得する人材育成を実施する。

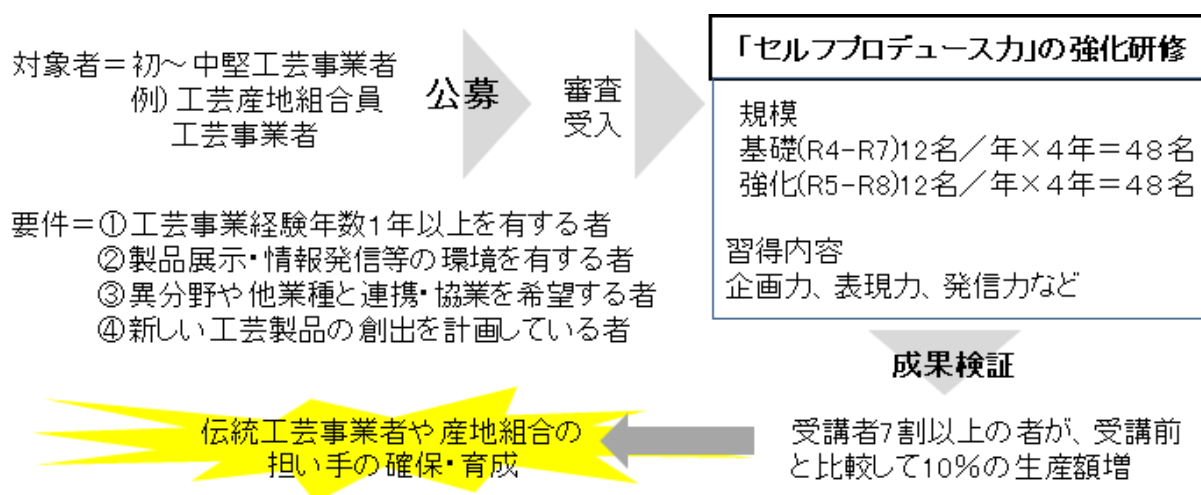
② 内容

PDCA サイクルの考えのもと、2 年を 1 単位とした人材育成を実施する。

1 年目では基礎＝PLAN（計画）・DO（実行）、2 年目は強化＝CHECK（検証）・ACTION（自走）とした内容である。

- 【研修期間】基礎コース 6 月～10 月
強化コース 11 月～翌年 1 月
- 【研修生募集】基礎コース 4 月～6 月頃
強化コース 9 月～10 月頃

③ 事業スキーム



【研修概要】

基礎コース…コンセプト決定、ブランディング、認知度向上計画や販売計画の作成、ディスプレイ、県外市場の情報と分析、プレマーケット展、成果展 等

強化コース…行動計画・告知計画の再構築、発信強化（SNS 情報発信実践） 等

(4) 工芸技術指導

① 目的

工芸産業を担う技術者の技術向上を図るため、センター職員による技術相談や技術指導を行うとともに、県内外の専門家による講習会の開催等を実施する。

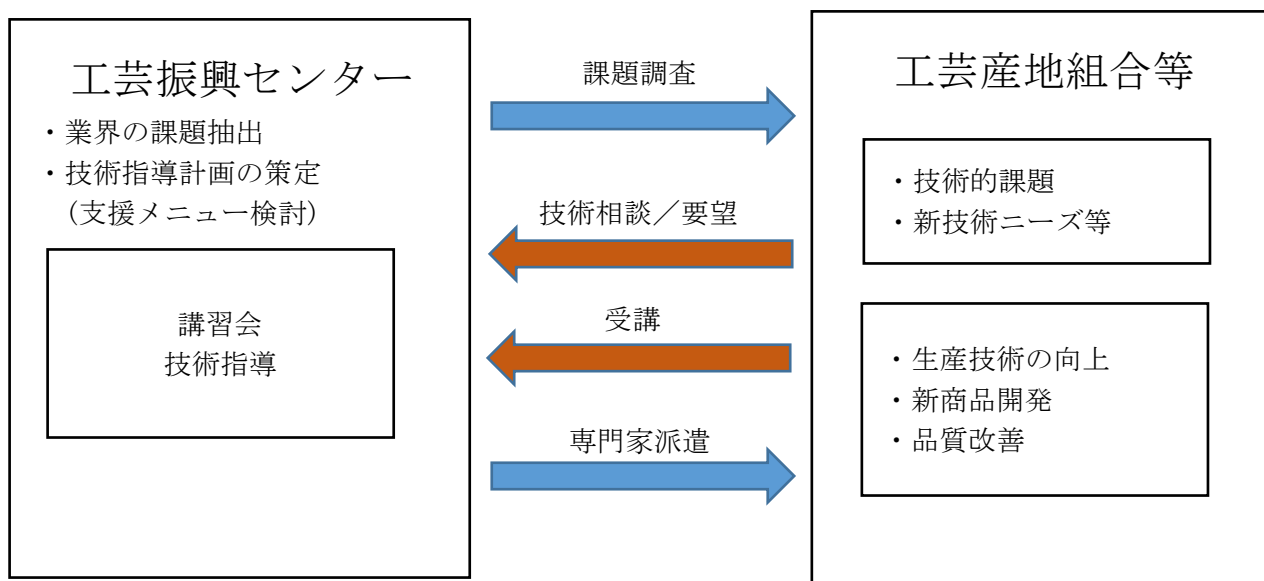
② 内容

染織・木漆工に関する原材料・加工技術・デザイン技術等について、個別の相談指導に対応するほか、産地ヒアリングや課題調査を行い、工芸産地組合や事業所のニーズ・要望に基づいて、課題解決のための技術指導及び講習会等の開催、専門技術者の派遣などを行っている。

また、事業者等からの依頼を受けて、染色堅牢度や材料の物性及び接着などの試験分析を行っている。

さらに、工芸振興センター内にある染織関係、木工関係の機器・設備について、工芸従事者が利用できるよう開放している。（有料にて利用可）

③ 事業スキーム



【依頼試験、機器利用メニュー】

依頼試験…繊維の試験、染色堅ろう度試験、染料・材料又は薬剤測定試験、物性試験、製品試験

貸出機器…染色耐光試験機、染色摩擦試験機、染色洗濯試験機、染色汗試験機、糸引張試験機、コンピューターカッティングマシン、万能ミキサー、NCルーター、微粒子粉碎機、分光測色計、環境試験機

(5) 工芸研究

① 目的

工芸に関する試験研究を行い、その成果の指導普及により生産技術の向上及び工芸製品の品質の維持改善を図り、工芸産業の振興発展に寄与する。

② 内容

染織、漆芸、木工芸を対象とした技術改善や改良、素材開発、製品開発などの試験研究を実施する。

技術情報の収集、県内外の関係機関との技術交流を実施する。

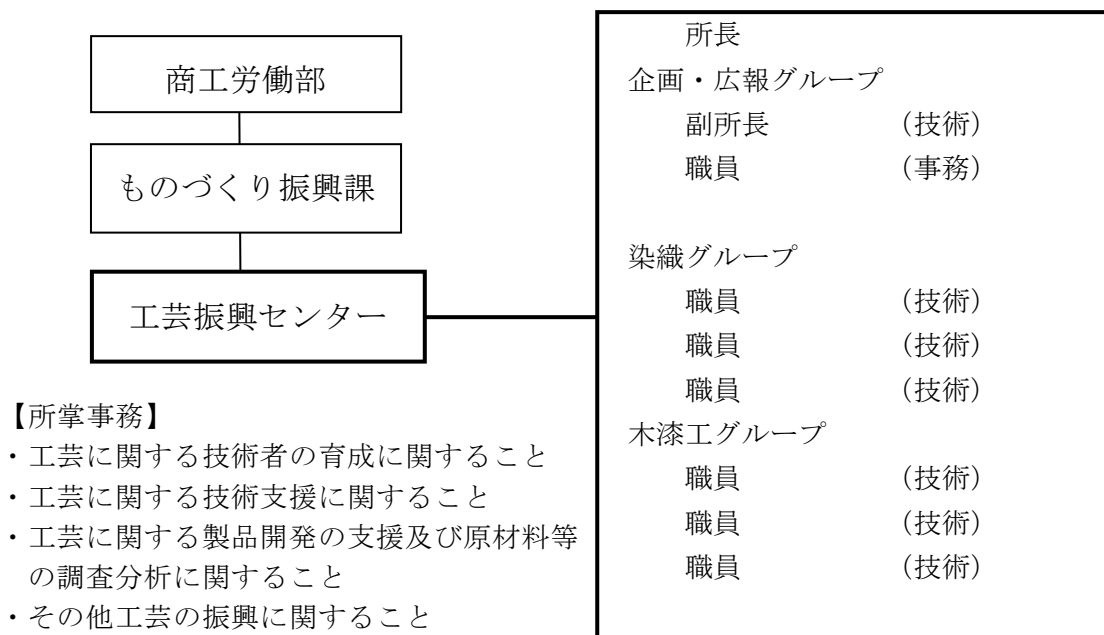
③ 事業スキーム



3 組織・予算

(1) 組織及び職員配置

職員数 9



(2) 令和6年度工芸振興センター予算総括表

(単位：千円)

(目) 工芸振興センター費	<u>64,449</u>		
(事項) 工芸振興センター運営費	<u>9,142</u>	(事業) 運営費 (工芸振興センター)	<u>9,142</u>
(事項) 工芸技術支援費	<u>54,217</u>	(事業) 工芸技術指導費	<u>1,921</u>
		(事業) 高度工芸技術者養成事業	<u>30,567</u>
		(事業) 金細工工芸縫製事業	<u>7,597</u>
		(事業) セルフプロデュース力 強化工芸研修事業	<u>14,132</u>
(事項) 工芸研究費	<u>1,090</u>	(事業) 工芸研究費 (単独)	<u>1,090</u>